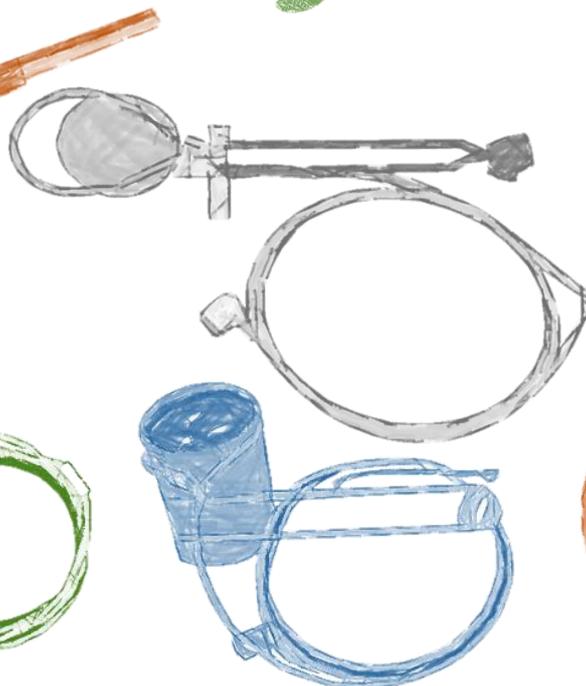
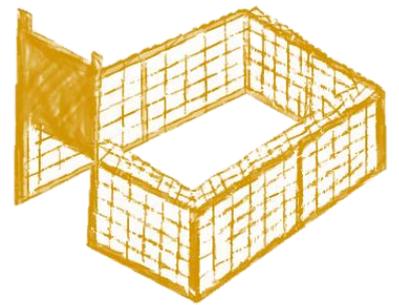
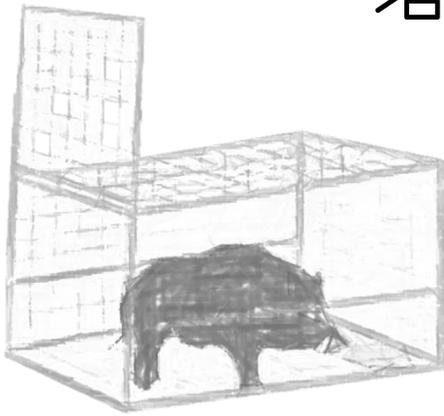


イノシシ

わな捕獲マニュアル

岩手県



はじめに

- 本マニュアルは、イノシシの捕獲を促進し、農業被害などを減らすために、わなによる捕獲技術の向上を図ることを目的に作成しました。
- 捕獲技術の向上のためには、イノシシの生態やわなの特徴をよく知り、環境や状況に合ったわなを効果的に設置することが重要です。
- そのため、わな猟初心者の方にも、設置場所の選定から止めさしに至るまでの基本的な流れやポイントなどが理解しやすいように解説しました。
- 本マニュアルが効率的かつ安全な捕獲技術の習得への一助となることを願っています。

目次

1. イノシシの生態	1
2. わなの種類	2
3. わなの選び方	
(1) くくりわな	3
(2) 箱わな	5
(3) 囲いわな	5
4. くくりわなによる捕獲	6
5. 箱わな・囲いわなによる捕獲	14
6. 資料編	
(1) チェックリスト（くくりわな）	23
(2) チェックリスト（箱わな・囲いわな）	24
(3) 痕跡	25
7. 豚熱対策	28

1. イノシシの生態

生態

- 頭胴長 120～150cm、体重 50～100kg。
- 野生の平均寿命は 10 年程度。
- 警戒心が強く臆病。
- 目は良くないが見えている。耳も良い。鼻は犬並みの鋭い嗅覚を持つ。
- 鼻先は敏感で電気刺激には弱い。
- 体毛は太く剛毛。体が電気柵に触れても平気。
- 60kg ぐらいの岩石を動かすことができる。
- 泳げる。

食性

- 雑食性で、人間が食べるようなものは全て食べる。
- イモ類やタケノコ、イネの穂、さらには昆虫の幼虫、草や木の根なども食べる。

行動

- 本来は昼活動するが、人の活動があると夜行性になる。
- 昼は田畑の近くのやぶ状になっている場所など、安心できる場所に潜む。
- 通りなれたけもの道を往復して移動する。
- 一般的な行動範囲は、周囲 2～3km 程度。
- 柵などの障害物は上を超えるよりも、下をくぐり抜ける傾向がある。
- 成獣は 20cm の隙間をくぐり抜ける。また、120cm の高さを飛び越える。
- 幼獣は、生後約 1 年間は母親と一緒に行動する。
- オスは単独行動、メスは単独または親や姉妹とグループで行動する。

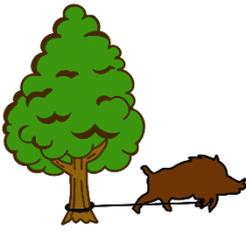
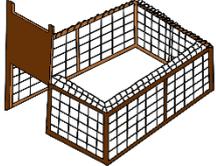
繁殖

- 2歳で初産、1回に平均4～5頭を出産する（ほぼ毎年出産する）。
- 冬に繁殖し、春から夏に出産する（年1回）。
- 春の出産に失敗した個体が秋に出産する場合がある。

2. わなの種類

イノシシを捕獲するわなには、「くくりわな」、「箱わな」、「囲いわな」があります。設置場所の広さや管理の都合、費用や捕獲体制などを考慮し、どの種類のわなを、どの場所で使用するかを決定します。

【各わなの特徴】

	くくりわな	箱わな	囲いわな
イメージ図			
捕獲可能頭数	1頭	複数頭	
餌付け	不要	必要	
運搬・設置	<ul style="list-style-type: none"> 設置や移動が容易 ※平地が少ない場所や狭い場所でも設置が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 設置や移動には人手や車両が必要 設置には平坦な土地が必要 	
利点	<ul style="list-style-type: none"> 設置の労力が少ない 比較的安価 1人でも設置が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 初心者でも捕獲しやすい 捕獲後の逃走リスクが低い 一度に複数個体の捕獲が可能 	
難点	<ul style="list-style-type: none"> 設置技術が求められる わなが破損しやすい 止めさし時の事故が多い クマ、カモシカの錯誤捕獲に注意が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所が限定される 設置に労力がかかる 餌付けに時間がかかる 高価 	

【注意！】

▼ツキノワグマの錯誤捕獲対策

- 檻の天井に直径約30cmの脱出口を設けた「箱わな」を使用すること。

▼標識の装着、立て札などの設置

- わなには、猟具ごとに1文字1cm以上の大きさに「住所、氏名、知事名、登録年度、狩猟者登録証の番号」を書いた金属製またはプラスチック製の標識をつけること。
- くくりわなの場合、わなを設置している場所がわかりづらいため、見やすい場所に立札などを設置して、事故の未然防止に努めること。

3. わなの選び方

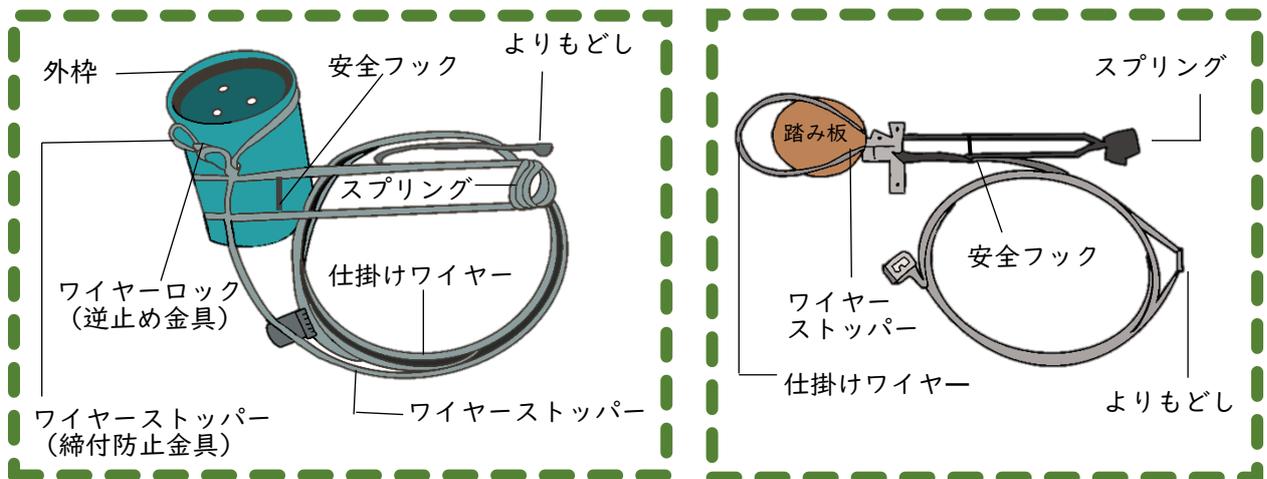
(1) くくりわな

ワイヤーで作った輪でイノシシの足をくくって捕まえるわなです。

【種類と仕組み】

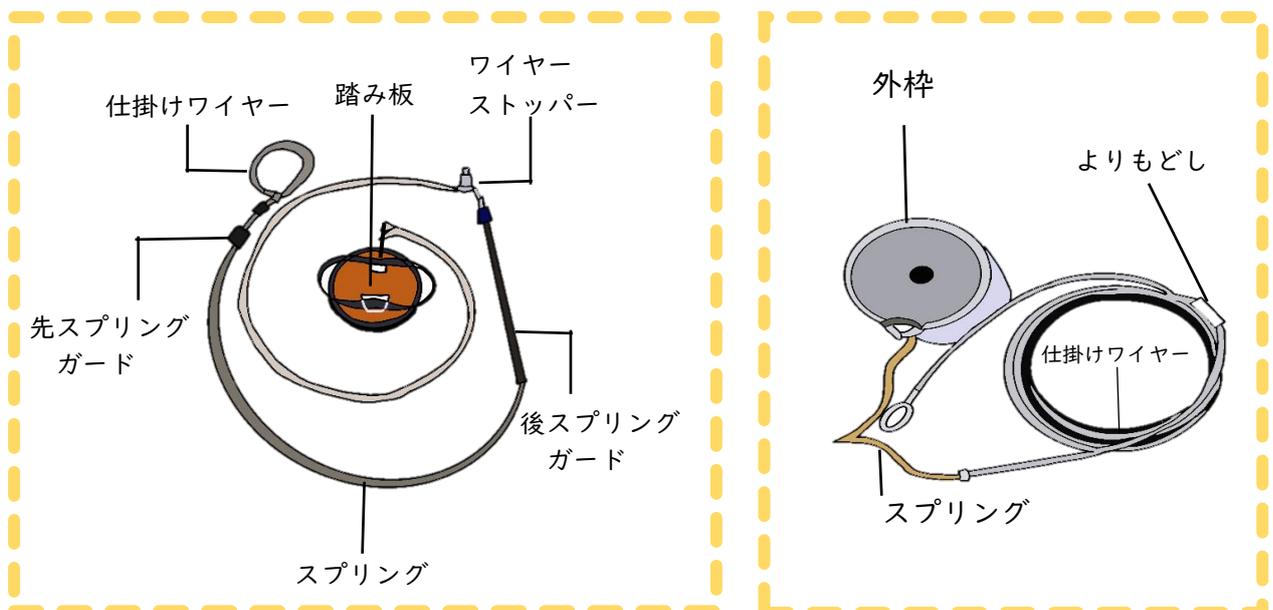
●跳ね上げ式くくりわな

輪の中に足を踏み入れた時に**バネが跳ね上がり仕掛けワイヤーを引っ張る**ことで、輪が足をくくります。



●押しバネ式くくりわな

輪の中に足を踏み入れた時に**スプリングコイルの伸縮によって仕掛けワイヤーを引っ張り**、輪が足をくくります。



【ワイヤーの選び方】

柔らかさと強度を基準に、使いやすいワイヤーを選びましょう。

太さが同じワイヤーなら、素線が多ければ柔らかくなり、心綱が鉄であれば強度が増します。

【バネの選び方】

強度を基準に、使いやすいバネを選びましょう。

バネが弱いと獲物に逃げられますが、強すぎるとセッティングが大変です。

【注意点】

くくりわなの構造は、次のことを遵守する必要があります。

- 輪の直径は 12cm 以内であり、締付防止金具を装着すること。
- ワイヤーの直径は 4mm 以上であり、よりもどしを装着すること。

※ 事故防止のため、ワイヤー、締付防止金具、よりもどしなどの消耗品は、捕獲のたびに新しいものと交換しましょう。



設置環境



捕獲状況

(2) 箱わな

金属などの材質で天井まで囲われた箱型のわなで、動物が仕掛けに触れることなどによって出入口が閉まり獲物を捕まえるわなです。



設置環境



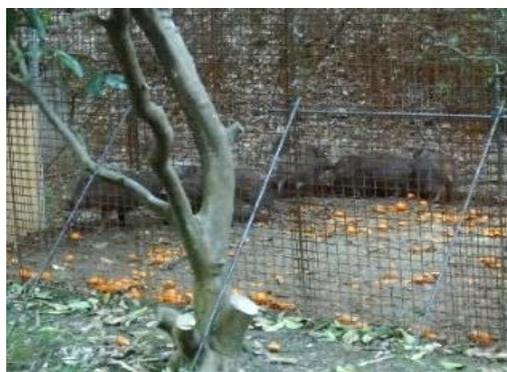
捕獲状況

(3) 囲いわな

箱わなと似ていますが、天井面の半分以上が開口しているわなです。箱わなと比べて構造が単純なため、わなの大型化が可能となり、多頭捕獲ができます。



設置環境



捕獲状況

▼ 捕獲した獲物を逃さない構造のわなを使いましょう

格子の目合い	10cm×10cm 以下
鉄筋の太さ	直径6mm 以上
逃走防止用ストッパー※	必須

※わなの中から捕獲した獲物に扉を開けられないようにするための仕組み。

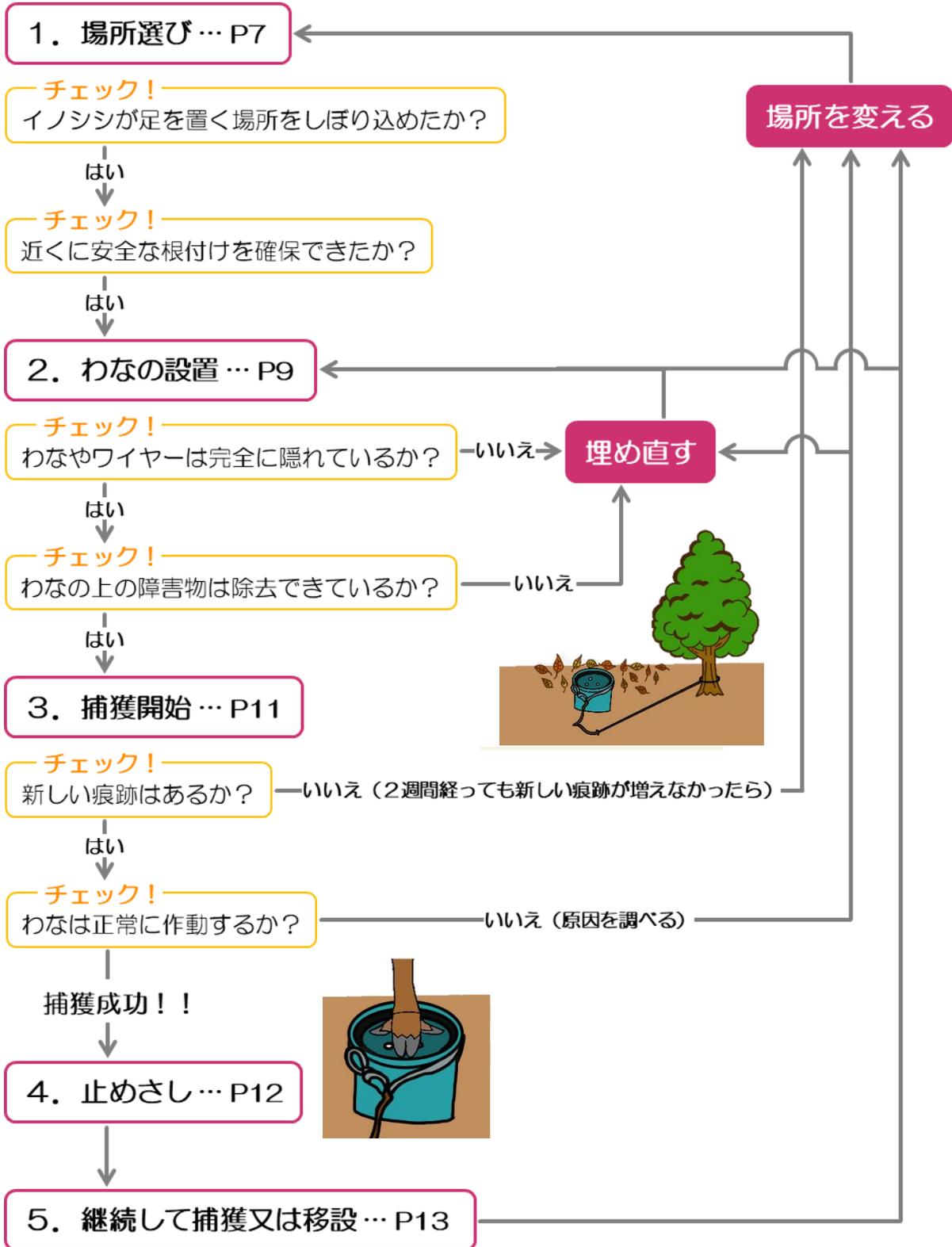
▼ 安全に作業できるわなを使いましょう

誤作動防止用の安全装置※	必須
--------------	----

※餌付け作業中に扉が閉まらないようにするための仕組み。

4. くくりわなによる捕獲

【くくりわなの捕獲フロー】



1. 場所選び

目標

- イノシシが確実に足を置く場所を見つけましょう。
- イノシシを安全に捕獲できる場所を見つけましょう。

- ① イノシシの新しい痕跡（足跡、糞、泥こすりの跡、食痕など）を見つける。
- ② イノシシが頻繁に利用しているけもの道を探す。
- ③ わなの設置条件に合った場所を探す。

【くくりわなの設置場所の選び方】

<p>適切</p> 	<ol style="list-style-type: none">① けもの道がくっきりしている② けもの道の幅が細い③ 傾斜が緩い④ 近くに丈夫な根付け*がとれる⑤ 複数のけもの道が合流している
<p>不適切</p> 	<ol style="list-style-type: none">① けもの道の幅が広い② 水はけが悪い③ イノシシの泥こすり痕の真下④ イノシシのエサ場⑤ 石や木の根が多い⑥ 急傾斜地である

*根付け：くくりわなのワイヤーの根元を固定しておく樹木などのこと。

① けもの道がくっきりしている

▼イノシシが頻繁に利用するので、捕獲できる可能性が高くなります。

② けもの道の幅が細い

▼わなを置く場所を絞りやすくなります。

③ 傾斜が緩い

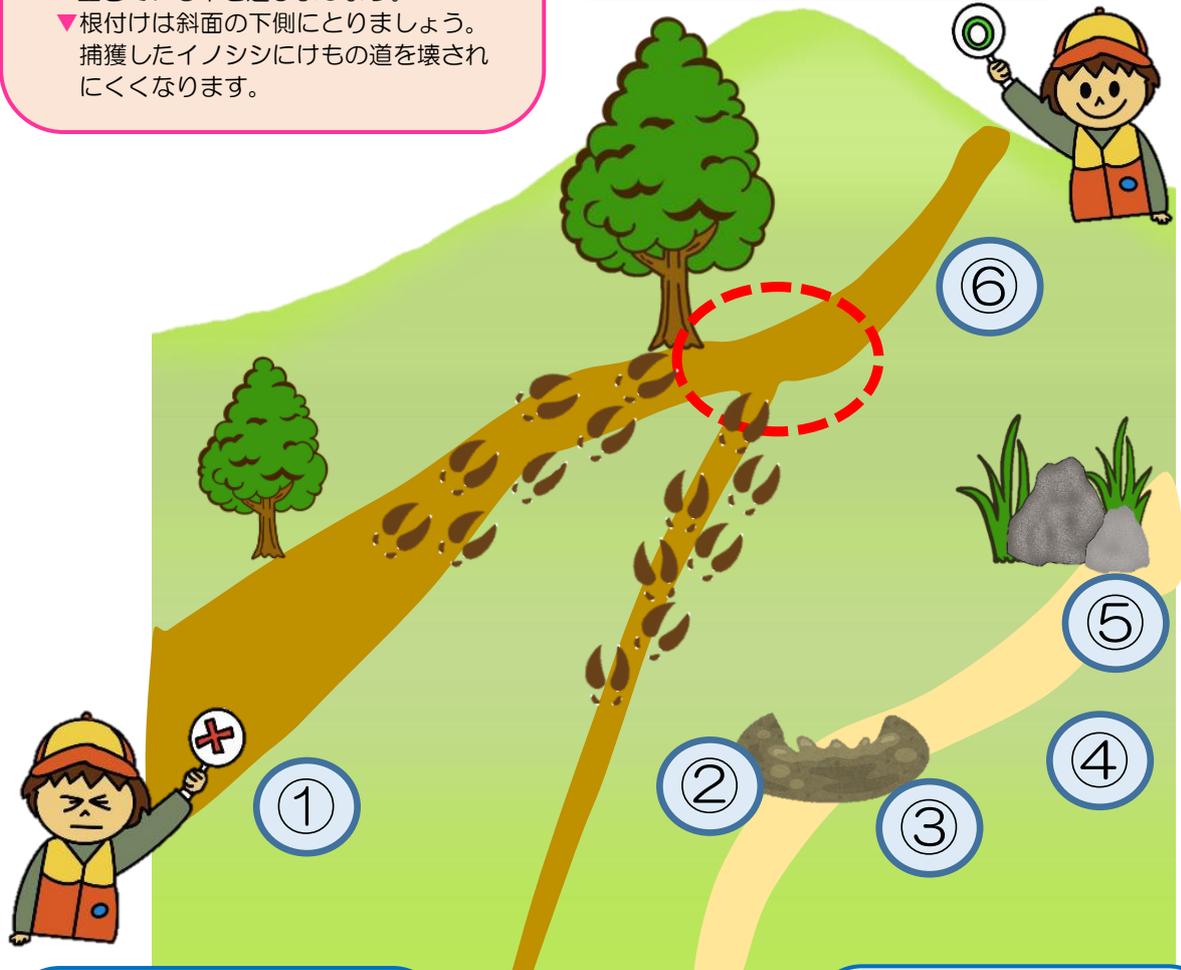
▼足場を確保しやすく、安全に作業できます。

④ 近くに丈夫な根付けがとれる

▼イノシシが暴れても折れない、生きている木を選びましょう。
▼根付けは斜面の下側にとりましょう。捕獲したイノシシにけもの道を壊されにくくなります。

⑤ 複数のけもの道が合流している

▼イノシシの捕獲効率が高くなります。



① けもの道の幅が広い

▼イノシシが自由にコース取りできるため、わなの中心を踏ませるのが困難です。

② 水はけが悪い

▼わなが露出したり、正常に作動しない原因になります。

③ イノシシの

泥こすり痕の真下

▼足を置く場所が安定せず、誤作動が多くなります。

④ イノシシのエサ場

▼わなが掘り起こされたり、誤作動が多くなります。

⑤ 石や木の根が多い

▼穴を掘りにくかったり、正常に作動しない原因になります。

⑥ 急傾斜地である

▼けもの道が崩れやすく、わなが露出したり、土砂で埋もれやすくなります。

2. わなの設置

目標

- イノシシに気づかれないように、わなを設置しましょう。

【くくりわなの設置手順（踏み板式くくりわなの例）】

- ① 足を着く位置がわなの中心にくるように、わなの設置位置を決める。

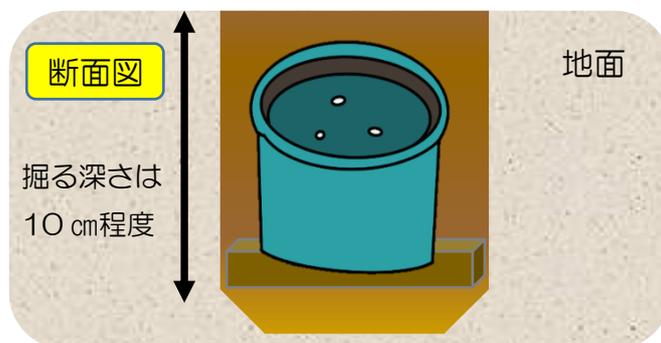
平面図



足を着く位置がわなの中心にくるように配置します。

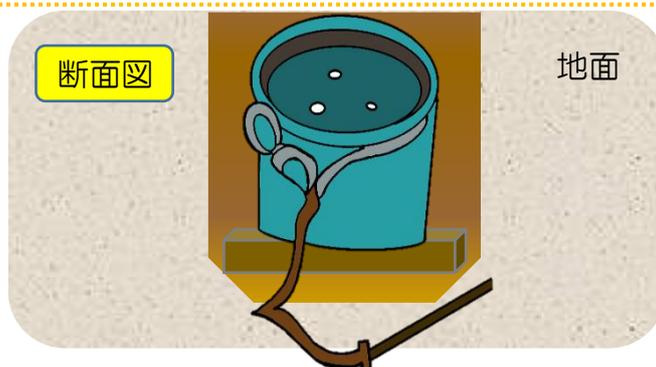
- ② けもの道と平行に、わながちょうど隠れるだけの穴を掘る。

- ▼ 掘る穴の深さは、上に薄く土をかけたときに地面と同じ高さになるくらいが目安です。
- ▼ 穴を掘る際は、できるだけ周辺環境を荒らさないようにしましょう。



- ③ 穴の底に板を敷き、その上にわなの本体を置く。

- ▼ 板とわなの間に石や土、枝などが入らないようにしましょう。



④ 乾いた土や枯れた落ち葉でわなを完全に覆い隠す。

▼ 広葉樹（どんぐりの木など）の葉はワイヤーと足の間にはさまり、逃げられやすくなるため、覆いには適していません。

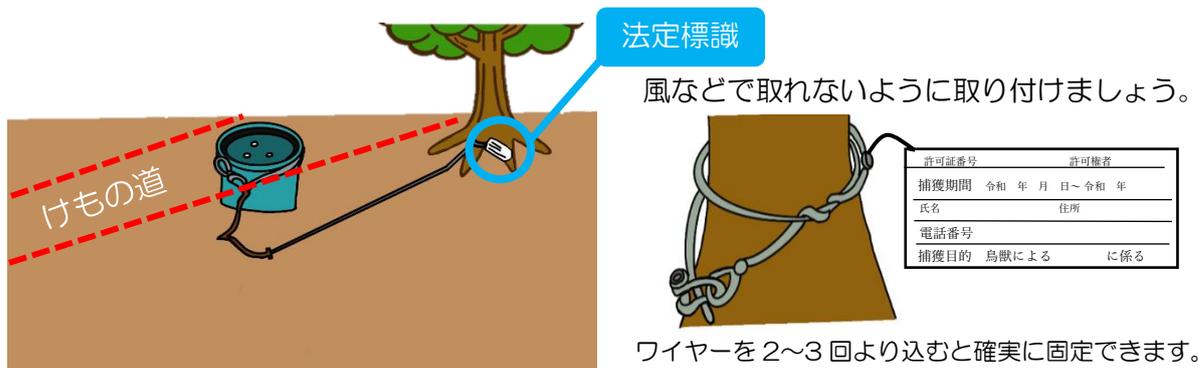
⑤ バネやワイヤーなども見えないように埋める。

▼ イノシシにしっかり体重をかけさせるため、わなの表面の土を前後の地面と同程度に固めておくことが重要です。

⑥ シャックル（ワイヤーロープの先端などに連結する U 字型の連結金具）を利用して、ワイヤーの根元を根付け木の幹に固定する。

⑦ 環境を元通りに復元する。

⑧ 木の枝や石を利用して、イノシシが足を置く場所を誘導する。



▼ わなの覆いにバネの稼働を妨げるようなものは使用しないようにしましょう。

※ 枝、湿った土、長い丈の草、小石などは取り除くこと。

▼ 根付けに使う木は、捕獲したイノシシが暴れても折れない丈夫なものを選びましょう。

※ 枯れた木や丸太、鉄筋杭などは根付けにしないこと。

▼ イノシシは障害物を避けて歩く習性があるため、木の枝や石を利用すると足を置く場所を誘導できます。

3. 捕獲開始

目標

- 常に捕獲できる状態を保ちましょう。

① 1日1回、必ず見回りをする。

- ▼ 長く放置すると、イノシシがワイヤーを切ったり、自分の足をかじって逃げることもあるため危険です。

② わなの状態やイノシシの足跡、足の運び方などを確認する。

③ わなやワイヤーが露出していたら必ず埋め戻す。

④ 誤作動したわなは放置せず、すぐに再設置するか撤去する。

【 わな移設のタイミング 】

次のような状況になった場合は、わなの移設を検討しましょう。

- ・ わな設置後、2週間以上イノシシが捕獲されなかった。
- ・ わなは作動したが、連続して捕り逃した。
- ・ イノシシやタヌキによってわなが繰り返し掘り起こされた。
- ・ 降雨による水没などで、わなが機能しなくなった。
- ・ 明らかにイノシシに回避されたような痕跡を確認した。
- ・ イノシシやシカを捕獲後、設置環境がひどく荒れた。

足跡の着き方を観察し、イノシシの行動を知ることで、捕獲技術は向上します！

4. 止めさし

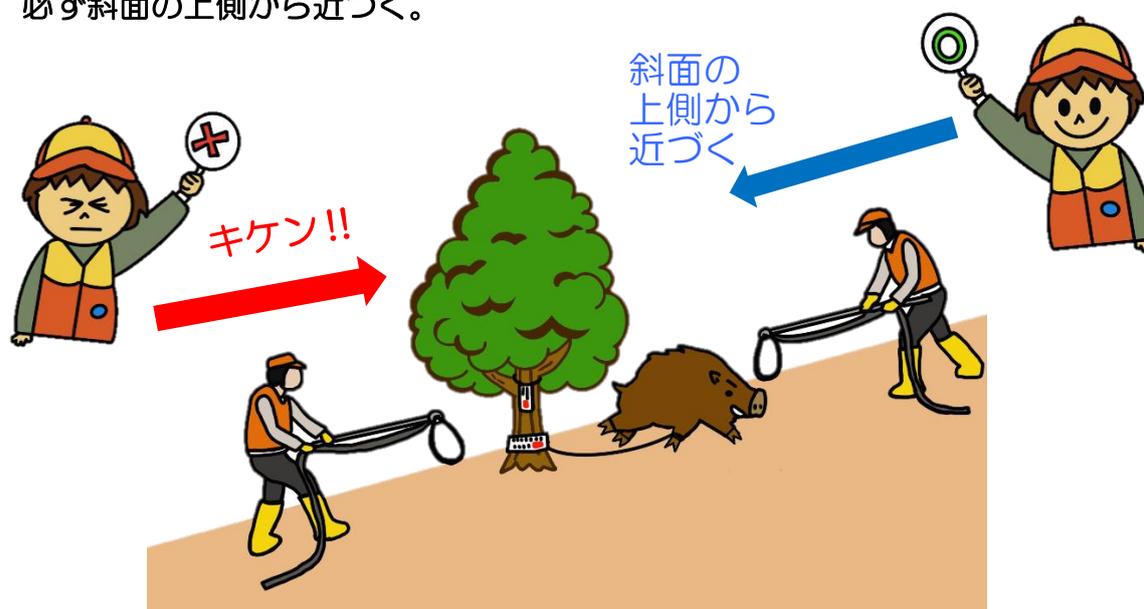
目標

- 安全に作業を行きましょう。

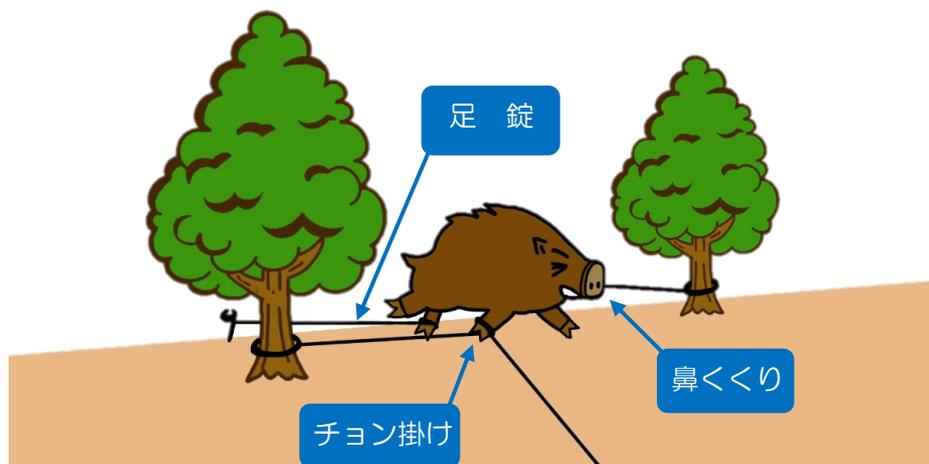
- ① 捕獲されたイノシシは、人に向かってくる性質があるため、不用意に近づかず、イノシシの興奮状態や、くくられている足の状態、ワイヤーのかかり具合、捕獲場所の環境などを確認し、最適な止めさしの方法を選択する。

▼ 銃器が使用できない場合は、必ずイノシシを保定してから止めさしを行きましょう。

- ② 捕獲個体の保定や止めさしを行う際は、イノシシの行動可能な範囲を確かめて、必ず斜面の上側から近づく。

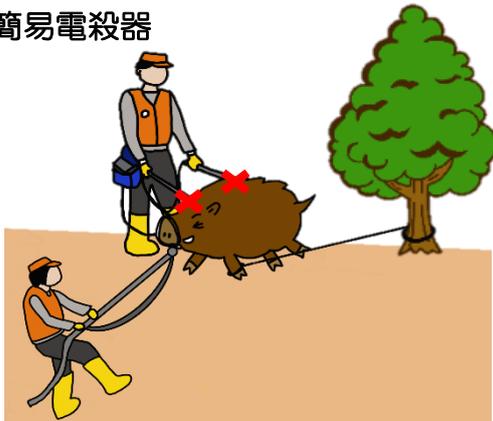


- ③ 保定具を用いてイノシシを保定する。



④ 作業者の安全を確保できたら、止めさしを行う。

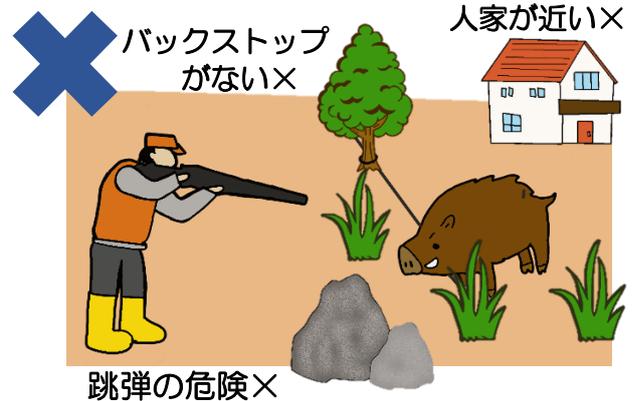
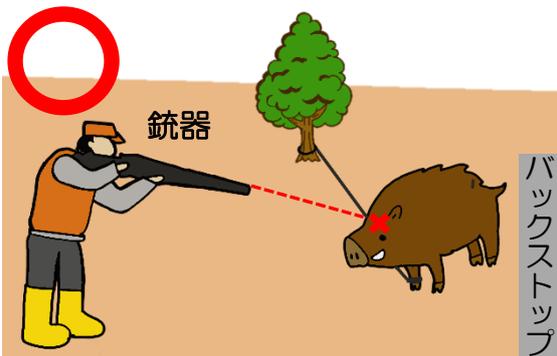
簡易電殺器



狩猟用刃物



ハンマー



5. 継続して捕獲又は移設

目標

- 効率よく捕獲を続けましょう。

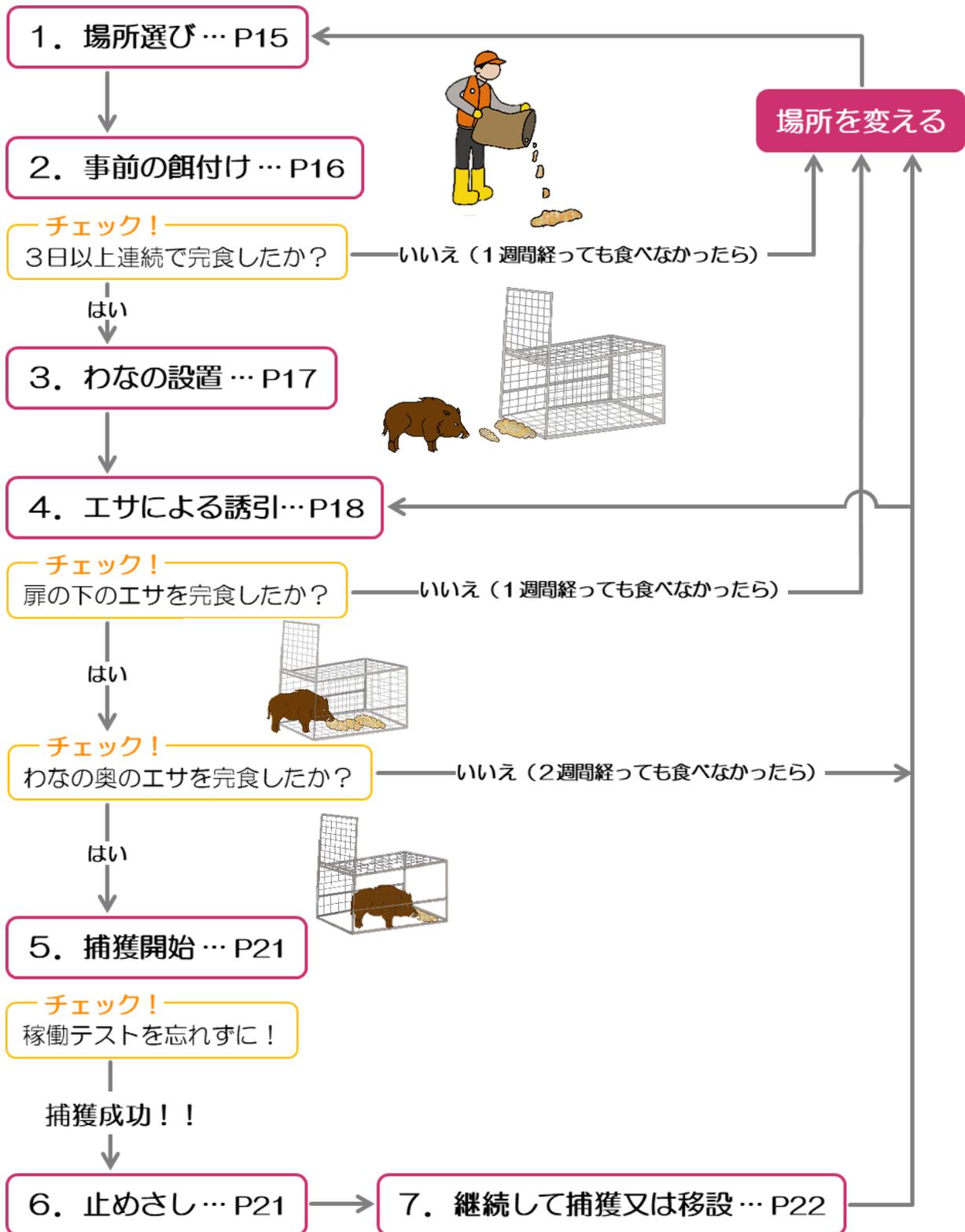
① 捕獲後の環境を見て、わなを埋め直すか、移設するか判断する。

▼ わなを移設する際には、捕獲場所の環境を元通りに直しましょう。

② 事故防止のため、ワイヤー、締付防止金具、よりもどしなどの消耗品は、捕獲のたびに新しいものと交換する。

5. 箱わな・罠いわなによる捕獲

【箱わな・罠いわなの捕獲フロー】



1. 場所選び

目標

- イノシシが頻繁に出没している場所を見つけましょう。

① 最新の出没状況を把握する。

- ▼ イノシシの新しい痕跡（足跡、糞、泥こすりの跡、食痕）、被害・目撃情報などをもとに場所を選びましょう。

② わなの設置場所を決める。

- ▼ 以下の条件を満たす場所を選びましょう
 - ・ 人家や交通量の多い道路から離れている
 - ・ 山際や見通しが良い林内
 - ・ 人目につきにくい
 - ・ 平坦で十分な広さの土地がある
 - ・ 捕獲個体や資材の搬入・搬出がしやすい
 - ・ 土地所有者の許可が得られる

【箱わな・罠わなの設置場所の選び方】

山際や林内のできるだけ
平らな場所を選んで
設置する

捕獲個体や資材の搬入・搬出
がしやすい場所を選ぶ



2. 事前の餌付け

目標

- その場所でイノシシを捕獲できるか確かめましょう。
- 捕まいたいイノシシのエサの好みを確認しましょう。
- イノシシにエサ場の位置を覚えさせましょう。

- ① わなの設置前に餌付けを始める。
- ② 何種類かのエサを少しずつまく。

- ▼ エサの好みは地域や季節によって異なります。
- ▼ まずは、誘引するイノシシのエサの好みを調べましょう。

- ③ 毎日、食べられたエサの量や足跡を確認し、新鮮なエサを追加する。
- ④ 3日以上連続してエサが完食されるまで継続する。

- ▼ 1週間経ってもエサが完食されていない場合は、エサの種類や餌付け場所の変更を検討しましょう。

【 誘引に使われるエサの種類 】

エサは、誘引力が強く、安価で扱いやすい（腐りにくい、入手しやすい、保管しやすい）ことがポイントです。

- ・米ぬか
- ・くず米、古米
- ・配合飼料（乾燥トウモロコシを含むもの）
- ・イモ類、マメ類
- ・その他の野菜、果実類（カボチャ、カキ、リンゴ、ミカン）
- ・酒かす
- ・塩
- ・融雪剤

被害農作物は誘引力が強い代わりに、防除をしっかりと行った上でなければ、捕り逃した際に餌付け行為となり、被害を悪化させる危険があるので、注意が必要です！

3. わなの設置

目標

- イノシシが入りやすいようにわなを置きましょう。

- ① 毎日エサが完食されるようになったら、わなを設置する。
- ② イノシシの目線に立ち、入りやすいと思えるような位置や向きにわなを設置する。

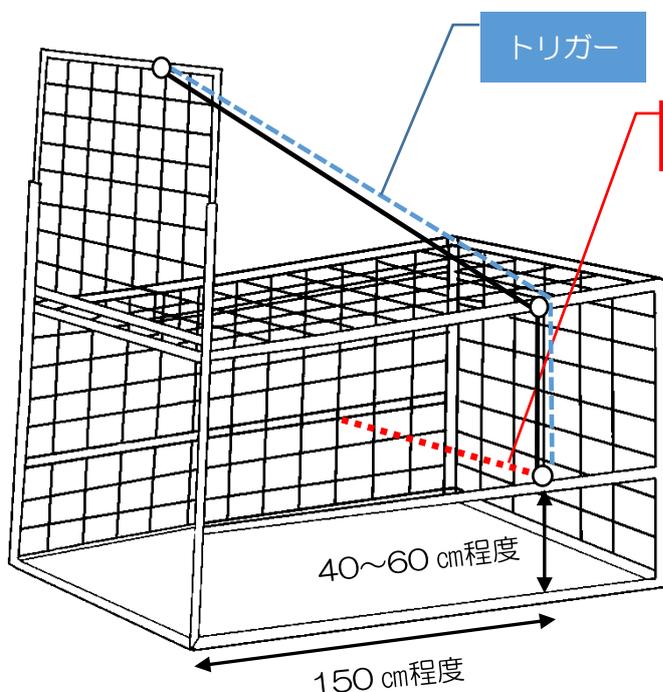
- ▼ わなは、けもの道をふさがないように設置しましょう。
- ▼ イノシシが完全に餌付く前にわなが閉まらないように扉を固定しましょう。

- ③ 蹴り糸やセンサー*をセットする。

- ▼ 繁殖力の強い大型の個体を捕獲するため、蹴り糸は地面から40~60cmの高さで、わなの入り口から4分の3程度の位置に設定しましょう。
- ※ 赤外線や通信機能を利用して、自動で扉が下りるわなもあります。

- ④ 蹴り糸に慣れさせるため、餌付け期間中は、蹴り糸を仕掛けにつながらず、イノシシが蹴り糸に触れたら、緩んで外れるように軽く結んでおく。

【蹴り糸の奥行きと高さの設定について】



- 蹴り糸の高さを40 cm以上に設定することで、ウリ坊やタヌキなどの中型動物による誤作動を防ぐことができます。
- ウリ坊だけ捕獲していると、繁殖力の強い大型の個体が警戒して、箱わなや囲いわなでは、捕獲できないイノシシが増加します。

※図は、奥行き2mの箱わなでの設置例

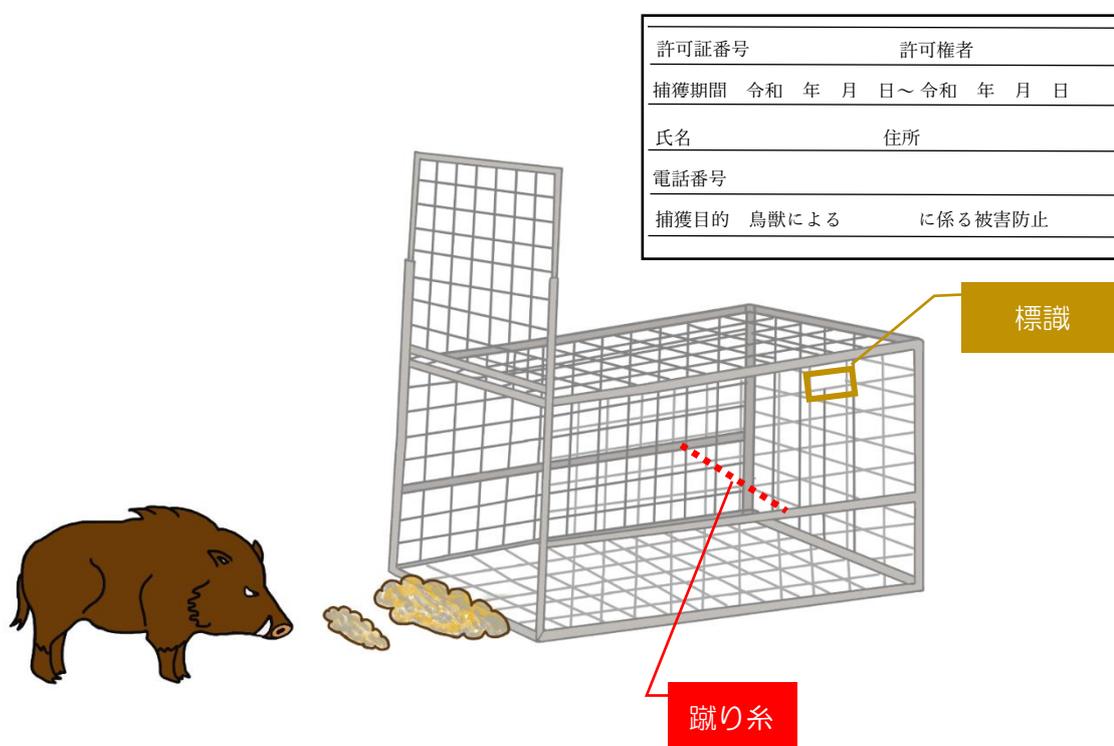
4. エサによる誘引

目標

- イノシシにわなをエサ場と認識させましょう。

【イノシシをわなに近づける】

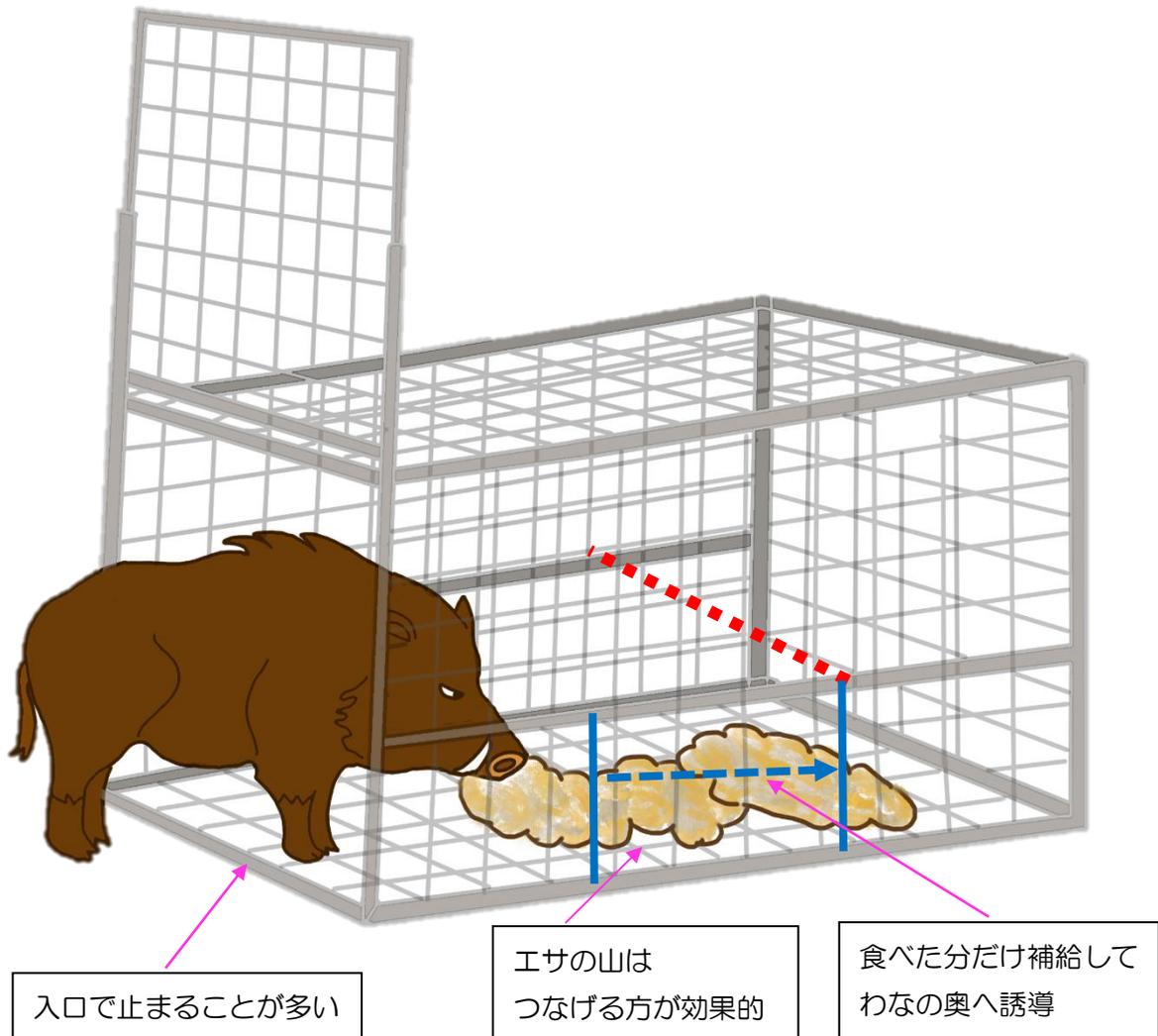
- ① 少し離れたけもの道から、徐々にわなへと誘導するようエサをまく。
- ② 毎日、食べられたエサの量や足跡を確認し、新鮮なエサを追加する。
- ③ 完食されるようになったところには、エサを置かないようにする。
- ④ 最後には扉の下のエサだけを残し、確実にイノシシをおびき寄せる。



- ▼ 最初は、わなの中にエサを置きません。
- ▼ 毎日エサを追加することで、わなを魅力的なエサ場と認識するようになります。
- ▼ 雨で濡れたりしてエサが腐ったら取り除き、新しいエサを置きます。
※ 腐ったエサは、わなの外に捨てずに持ち帰りましょう！
- ▼ 足跡を観察し、寄り付き具合を想像することも、捕獲技術の向上につながります。

【イノシシをわなの中に誘い込む】

- ⑤ 扉の下のエサが完食されるようになったら、わなに入らないとエサが食べられないように、わなの中だけにエサをまく。



【エサによる誘引が必要な理由】

理由①：群れで行動するイノシシを誘引する場合、警戒心の低いウリ坊は、すぐにわなに入ってエサを食べようになりますが、成獣がわなに入るには時間がかかります。十分に餌付けてから捕獲をすることで、群れで捕獲できる可能性が高くなります。

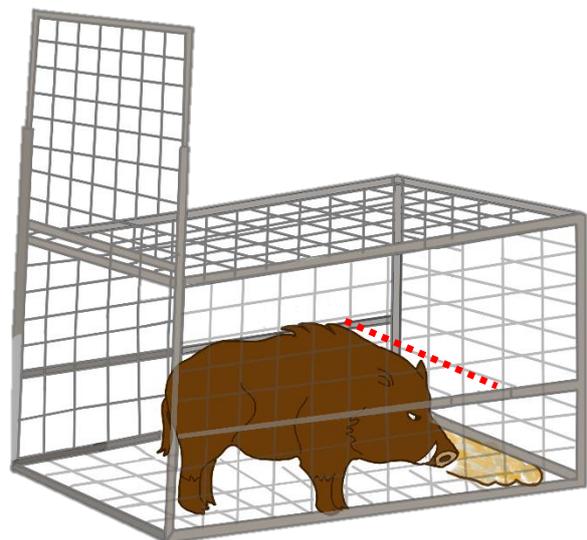
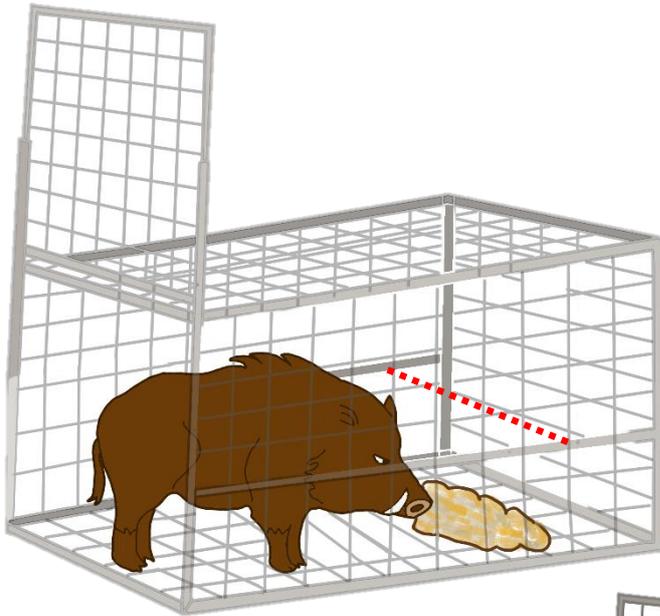
理由②：できるだけ多くのイノシシに、わなをエサ場と認識させることで、同じ場所で続けて捕獲できる可能性が高くなります。

【イノシシをわなの奥まで誘い込む】

⑥ 毎日、わなの中のエサを食べるようになったら、わなの奥だけにエサをまく。

▼ わなに入るようになったら、手前にエサをまくのはやめましょう。
(わなに対する警戒心が戻ってしまうためです。)

⑦ わなの奥のエサが毎日完食されるようになるまで、餌付けを続ける。



- ▼ 足跡を見て、大型の個体がわなに入るようになったことを確認したら、もう一息！
- ▼ 警戒をとく餌付けを続けて、一気に奥まで誘い込みましょう。
- ▼ わなをエサ場と認識すると、毎日奥のエサまで完食するようになります。

5. 捕獲開始

目標

- 餌付けたイノシシを確実に捕獲しましょう。

① 扉の固定を解除し、スムーズに扉が落ちることを確認する。

- ▼ サビなどで扉の動きが悪いときは、食用油や潤滑油を塗布します。

② イノシシの侵入に合わせて正常にわなが作動するか、各部の作動状況を確認する。

- ▼ 蹴り糸、トリガーがきちんと作動するか確認します。
- ▼ センサー付きのわなについては、センサーの設定も確認します。

③ 蹴り糸より奥だけにエサを追加して、捕獲を開始する。

6. 止めさし

目標

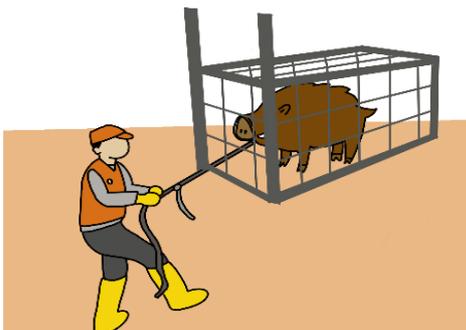
- 安全に作業を行きましょう。

① 捕獲後は、できるだけ早く止めさしを行う。

② 安全かつ確実に止めさしを行うために、まずイノシシをしっかり保定する。

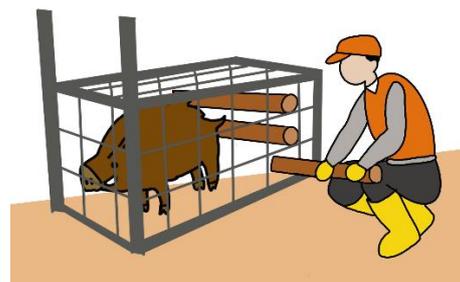
鼻くくりでイノシシの鼻を保定する

箱わなの隙間からワイヤーを入れ、イノシシの鼻をくくります。箱わなの上の方からワイヤーを入れる事で、あごや前足が浮き、止めさしがしやすくなります。



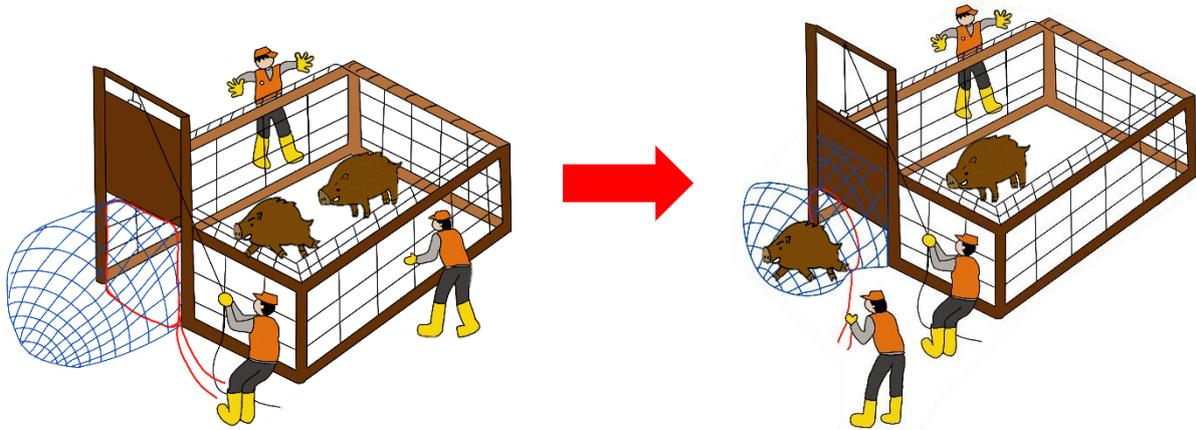
棒を押し込んでイノシシの動きを封じる

箱わなに竹や角材などを挿していく事で、少しずつ空間を狭くして、イノシシを動けなくしていきます。



③ 作業者の安全確保ができれば、止めさしを行う。

【 囲いわなの場合 】 保定用ネットや小型の檻に誘い出して保定する

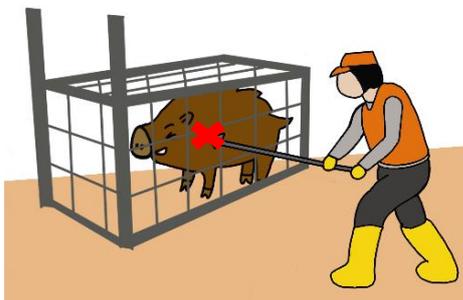


イノシシを保定用ネットに誘い出す

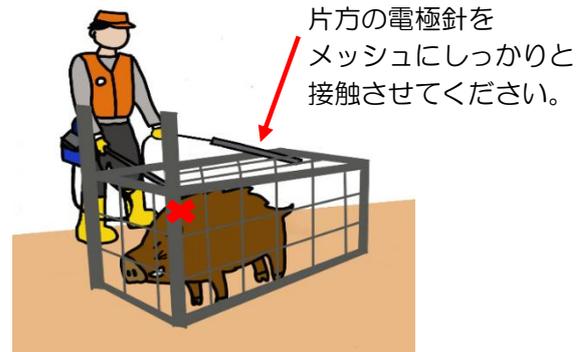
絞り用の紐を締め、扉を閉める

【 箱わなの場合 】

狩猟用刃物で止めさしをする



簡易電殺器で止めさしをする



7. 継続して捕獲又は移設

目標

● 効率よく捕獲を続けましょう。

① 周囲に捕獲可能なイノシシが残っていないか確認する。

- ▼ 捕獲後は、わなの中にエサを置き、他のイノシシの存在を確認します。
- ▼ 1回捕獲に成功すると、2週間くらいで別の群れが来ることもあります。

② エサの食べ方をみて、継続して捕獲をするか、わなを移動させるか決める。

6. 資料編

(1) チェックリスト（くくりわな）

1 設置場所

No.	項目	○×
1	周辺に新しい足跡があるか	
2	道幅が細く、利用頻度が高いけもの道か	
3	平坦で、見通しの良い場所か	
4	近くに丈夫な根付けがとれるか	
5	次の場所には該当していないか <ul style="list-style-type: none"> ・水はけが悪い場所 ・泥こすり痕の真下 ・石や木の根が多い場所 ・急傾斜の場所 	

2 設置方法

No.	項目	○×
1	足を着く位置が、わなの中心にくるようにしているか	
2	わなやワイヤーは露出していないか	
3	わなの覆いは適切か (動きを妨げる石や枝が上に乗っていないか)	
4	周囲の環境は違和感なく復元されているか	
5	根付けは捕獲したイノシシが暴れても折れないか	
6	標識や看板は設置したか ※わなを設置している場所がわかりづらいため見やすい場所に立札などを設置して、事故の未然防止に努めること	

3 設置場所の移動（なかなか捕獲出来ない時に確認する項目）

No.	項目	○×
1	周辺に新しい足跡があるか	
2	わなに気づかれたような痕跡はあるか	
3	わなやワイヤーは露出していないか	
4	わなの覆いは適切か	
5	足の着く位置に、わなが設置できているか	
6	わなは正常に作動するか（※実際に確認してみる）	

(2) チェックリスト (箱わな・罠いわな)

1 設置場所

No.	項目	○×
1	周辺に新しい足跡があるか	
2	人家や交通量の多い道路から離れているか	
3	山際や見通しが良い場所か	
4	人の出入りが少なく、目につきにくい	
5	広くて平坦な場所か	
6	土地所有者の許可が得られているか	

2 設置方法

No.	項目	○×
1	設置前に地面を整地したか	
2	わなの底面を周辺の土や葉で埋めたか	
3	わなの出入口の扉はスムーズに落ちるか	
4	わなは正常に作動するか (※実際に確認してみる) ・仕掛け、センサー、ストッパー及び安全装置	
5	クマ用の脱出口はあるか	
6	標識や看板は設置したか	

3 エサによる誘引 (初期)

No.	項目	○×
1	わなの周辺にエサを置いたか ※始めは近寄らないので10mくらい離れた場所から	
2	エサは食べられているか ※1週間経っても食べなかったら場所を変える ※食べられている場合は、わなの方にエサを近づけていく	

4 エサによる誘引 (終期)

No.	項目	○×
1	わなの扉の下のエサを完食したか ※1週間経っても食べなかったら場所を変える	
2	わなの奥のエサを完食したか ※2週間経っても食べなかったら場所を変える	

5 捕獲開始

No.	項目	○×
1	イノシシがわなに十分なれたか	
2	出入口の扉がスムーズに落ちるか	
3	わなは正常に作動するか (※実際に確認してみる) ・仕掛け (蹴り糸、トリガー)、センサー	
4	仕掛けの高さは40cm以上か ※40cmは幼獣やタヌキはかからず、成獣がかかる高さの目安	
5	仕掛けより奥だけにエサを置いたか	

(3) 痕跡

【足跡】



- ▼ シカの足跡に比べ、全体的に丸みがかかっているのが特徴です。
- ▼ 副蹄の跡は深く踏み込んでいないと残りません。

【糞】



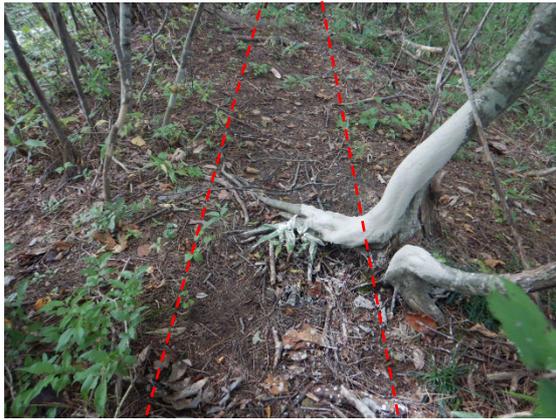
- ▼ 新鮮な糞は固まっています。時間が経つと乾燥して、シカの糞のようにバラバラに崩れます。

【泥こすりの跡】



- ▼ イノシシは、又夕場で泥浴びをする習性があります。
- ▼ 泥浴びのときにこすりつけた泥が、移動時や泥こすりの際に立木や下草に付きます。

【けもの道】



泥のついたけもの道



草地のけもの道（草がかき分けられている）



動物の往来が多いと、けもの道ができる

【 寝屋・出産ドーム 】



寝屋



出産ドーム

▼ 山林や休耕地などに、落ち葉やササ類などを集めて休憩場にしたり、寝屋をドーム状にして、繁殖時に巣を作ることがあります。

【 農業被害 】



農地の掘り返し



水稻被害

【 シカの痕跡（参考） 】



シカの足跡



シカの糞



シカの糞（団塊状）

▼ シカの足跡はイノシシと違い、副蹄の跡が付きにくいのが特徴です。
▼ シカの糞は団塊状のもあり、イノシシの糞と間違えやすいので注意が必要です。

7. 豚熱対策

1. 豚熱とは

「豚熱」は、豚やイノシシに感染する伝染病で、強い感染力と高い致死率が特徴です。近隣県の野生イノシシで感染が拡大しており本県への侵入リスクが高まっています。

県では、イノシシの捕獲によって養豚農場に感染が拡大することを防ぐため、「防疫措置の手引き（岩手版）」を作成しましたので、参考にしてください。

【岩手県公式ホームページ】



2. 感染を広げないために大切なこと

- ・イノシシの捕獲などをした後7日間は養豚農場に近づかない。
- ・養豚農場の近くで、猟犬を使った狩猟をしない。
- ・イノシシの生息地域に入った車は、タイヤや運転席の足元を洗浄・消毒する。
- ・捕獲で使う衣服や履物とそれ以外で使用するものを分ける。

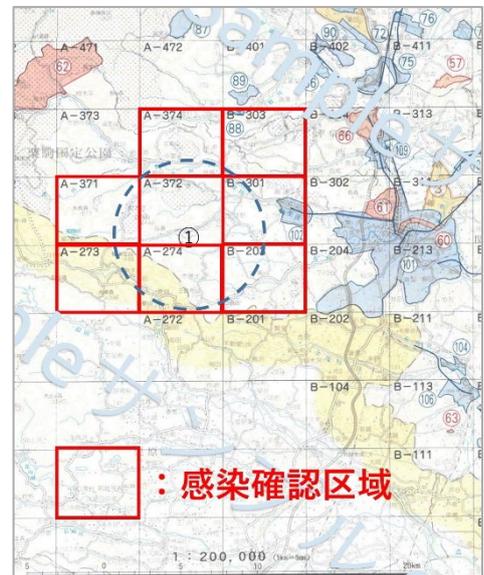
3. 県内で豚熱が確認された時の対応

豚熱に感染したイノシシが確認された地点から、半径10km圏内にかかるメッシュ区画に含まれる区域を「感染確認区域」に指定します。

区域内で捕獲したイノシシは、原則、現地で埋却します。やむを得ず移動させる場合は、拡散防止措置を実施し、感染確認区域から持出さないようにお願いします。（県が陰性を確認した個体は移動可）

4. イノシシの数を減らすことが重要

養豚農場で豚熱の発生を防止するためには、農場における防除とイノシシの間で感染を広げないよう個体数を減らすことが重要です。狩猟者の皆様のご理解とご協力をお願いします。



【問い合わせ先：岩手県農林水産部畜産課 019-629-5729】

■ 参考文献等

「イノシシ捕獲技術プログラム Ver.2」（香川県環境森林部みどり保全課）

※ 香川県の許可を得て、引用しました。

■ 写真提供

株式会社地域環境計画

岩手県 イノシシわな捕獲マニュアル

令和4年3月 初版

■ 発行／岩手県環境生活部自然保護課

■ イラスト／細谷 幸子

